

令和7年度 第1回 河北町総合教育会議 会議録

1 出欠席者氏名

河北町長 森谷 俊雄、河北町教育長 板坂 憲助

河北町教育委員 児玉 康子、木嶋 真一、槇 ふみえ、庄司 泰寛

欠席者（0名）

2 事務局職員の職氏名

学校教育課長 宇野 勝、生涯学習課長 秋場 弘昭

教育主幹(兼)指導主事 森 暢仁、指導主事 鈴木 玄輝

課長補佐兼教育総務係長 齋藤 淳

3 日 程

令和7年12月18日（木）午後3時5分 開会 河北町役場 3階 302会議室

1 開会

2 町長あいさつ

3 協議

- (1) 河北町第3次教育振興計画策定について
- (2) 河北町立小中学校整備基本構想・基本計画について
- (3) 部活動地域展開の進捗状況について

4 その他

5 閉会

1 開会

齋藤補佐

只今より、令和7年度 第1回河北町総合教育会議を開催いたしたいと思えます。はじめに町長あいさつを森谷町長よりお願いいたします。

2 町長あいさつ

森谷町長

年末のお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

令和元年から小学校の再編問題ということで、あり方検討委員会、そして去年から整備委員会のもとで、議論を重ねてきていただいているわけですが、その基本構想、基本計画についての協議、また、来年の4月から、部活動が休日の地域展開ということで、いよいよ迫っております。いずれも、これまで総合教育会議で何回か議論してきたテーマですが、いよいよ大詰めに向けてということになります。いずれも大きな課題ですけれども、よろしくお願いしたいというふうに思います。

私から挨拶の中で触れさせていただきたいと思ひまして、2枚の資料を準備しました。

8次総合計画、企画財政課を中心に教育委員会も含めて、全庁的に審議会を開催しながら答申を頂いて、2年かけてこの12月議会の議決をちょうだいして、確定しました。総合計画の後期基本計画、令和8年から12年度までの5年間の後期計画ということで、議決を頂いたものであります。

全部で1から5章までありますが、内容については議会で議案にもなっておりますし見ていただける状況にあると思いますが、第5章の教育に関するポイント的なものを整理したのがこの資料です。家庭・地域と連携した学校教育、第2節として地域に根ざした生涯学習、第3節として歴史と文化の継承、が大きな3本の柱になっています。

本日の協議事項にも入っております第1節です。一つは、将来を見据えた町立小中学校の計画的な整備という形で、この計画の中に整理方針を決定したということでもあります。中身的にはここに書いてありますとおり、河北町立小・中学校整備基本構想、そして基本計画、まさに今日協議頂く中身でありますけれども、それに基づいて小中一貫教育の環境整備、具体的には施設一体型の小中一貫教育の学校づくりを進めていこうと、将来を見据えた、児童生徒をめぐる学校取り巻く様々な多様化、教育課題、あるいはIT化だったり、いろいろあるわけですが、そういった学校教育をめぐる環境の将来と、現状と将

来ということもありますし、もう一つ大きいのが、児童生徒の減少、そういった学校教育を取り巻く、これからの学校づくりを視野に入れた、見据えた学校整備を計画的に進めます、ということで整理してございます。

あともう一つ、中学校の部活動の地域展開に絡む部分ですけれども、中学生が継続的にスポーツ、文化芸術活動に親しむ機会の確保、部活動改革、これは、現在進められつつある地域展開ということを主に念頭に置いた記載だというふうに思いますけれども、将来にわたって河北中生が希望するスポーツ、文化芸術活動に親しむことができる機会の確保、充実を図ります、としております。今、部活動は任意加入になってます。だから部活動に加入するかどうかは生徒の選択です。そういう中で、休日の部活動は地域に委ねられる形になるわけですが、休日も自ら競技の活動をしたいというような生徒について、その受け皿を確保していくと、つまり、平日の部活だけでなく休日も自分として競技力向上なり、あるいはいろいろな活動を地域展開の中で、レベルアップしたい、練習したいという中学生の希望を叶えられる受け皿づくりを、しっかり町としてやっていくという方向づけ、町としてというか、全部役場でするって意味ではなく、地域の方々が指導に当たっていただいている受け皿をしっかり準備していくと位置づけております。

あと今日の会議と直接関係ありませんけれども、魅力ある高校づくりを行う支援、町の教育委員会の所管とは直接絡みませんが、谷地高の支援という形で、これも教育委員会を中心に支援する会の活動も進めています。生徒の減少に伴って高校の再編に関する県教育委員会としての基本的な考え方、以前の考え方だと2年連続して定員の3分の2以上確保できないときは、次の年は、1クラスに減らします。1クラスに減った場合にはその定員の半分も満たさないようなときは、いろいろ考えるとのことでしたが、現在は再編の考え方を再度検討します。県委員会で去年1年検討してパブコメしてます。町からも谷地高の存続ということ念頭に置いた谷地高の魅力化、谷地高の校長先生と議論して、様々な面で魅力づくりという意味で、やっぱり高校生活の充実、あるいは勉強にしても部活にしても生徒会活動にしても、1クラスでなく2クラス、というのは最低限2クラスで、その中でいろいろな選択ができる、いろいろな活動ができる

環境、大きな前提としてこの2クラスを最低でも維持できる方向にしていきたいと、その辺の考え方についてパブコメに対して町としても意見を出しています。今取りまとめ中となっていて、まだ決まってません。3月にパブコメが終わって、普通であれば2〜3か月すれば、パブコメを受けた最終的な案が決まるのですが、間もなく1年になろうとしています、まだ今取りまとめ中という状況にあります。

以上が後期計画で、12月議会で可決頂いた中身であります。

これを踏まえて、この後期計画に基づく実施計画、これと財政計画のセットになりますが、令和8年度からの5か年の数字を入れてます。来年度以降は毎年3年間でローリングしていきます。今年は後期計画のスタートなので、5か年の見通しをかけてるということでもあります。

河北町立小中学校の計画的な整備というものについて、小学校については令和13年度の開校を目指して整備していくということで、端的に言えば、令和12年度までに建設していくということで実施計画のほうに盛り込んでおります。令和7年度、今年度は基本構想と基本計画をつくっていきましょう。来年度はそれを受けて基本設計をしましょう。そして、令和9年度については、実施設計、設計図ですね、それをつくっていく。そして、令和10年度、11年度、12年度、この3か年で建築工事と書いてありますけども、実際校舎を建てていくということで、大体学校について来年度は7,900万、再来年度は実施設計で1億7,000万、10年度から実際の建築工事が始まって、後で説明があると思いますが、50何億と小学校については整備費がかかるという中で、10年度が19億、そして11年度は9億6,000万、そして、最後の仕上げの年になる12年度は13億、これを町の大体100億超えるぐらいの予算の中で、まずは小学校を段階的に整備して中学校についてはそのあと整備していくんだという中で、小学校についての事業費は織り込んだ形で実施計画をつくっています。

ただ前提として先ほど言いましたように、総合計画の後期基本計画の中に、この基本構想・基本計画に基づき進め、計画的に進めていくということでございますので、そういう中で整備委員会、そして教育委員会会議、総合教育会議を通して、最終的に基本構想・基本計画をつくって進んでいくという形を、御

理解頂き、今日の協議事項に臨んで頂ければありがたいなというふうに思います。

私からは以上です。

齋藤補佐

それでは、協議に入らせていただきたいと思います。座長につきましては、森谷町長にお願いいたします。

3 協議

森谷町長

それでは協議(1)の(1) 河北町第3次教育振興計画策定について、事務局からお願いします。

齋藤補佐

第2次河北町教育振興計画が平成29年度に策定されまして5年経過しました。令和3年度中に見直しを行いまして令和4年4月に河北町教育振興計画改訂版として策定し、教育の推進をしてきたところです。

その中で国におきましては、令和5年に国の教育振興基本計画、それを踏まえて山形県で令和7年3月に第7次の山形県教育振興計画が策定されております。河北町におきましては、町長から御説明ありましたように、今年の12月に第8次河北町総合基本計画が策定されており、教育施策についても謳われていますので、そういったことを推進するという意味を含めまして第3次河北町教育振興計画、こちら令和9年度から10年間の計画期間を予定して策定することにしております。

体制としまして河北町総合教育会議、この会議と河北町教育委員会が中心になって協議を進めながら策定していくという流れにはなりますが、教育委員会から諮問という形で河北町教育振興計画策定委員会を設置させていただきたいと思います。こちらにつきましては、学校教育関係者、生涯学習関係者、地域・保護者代表、学識経験者等の方々に集まっていただいて、検討いただきたいと思います。

思っております。

あわせて、河北町教育振興計画策定会議につきましては、教育長及び河北町役場の関係各課長、小中学校の先生方に入っただいて策定会議を設置しまして、策定委員会の前段階として、計画等の検討をして提案していただく会議となります。この二つの組織を設置し策定という流れにさせていただきたいと考えておるところです。

資料2枚目の裏側を御覧頂きたいと思います。こちらが第2次河北町教育振興計画を策定したときの策定委員会の委員名簿になっております。こういった方々、団体から委員のほうを選出させていただいて、策定委員会で協議を頂いたところでございます。前は委員長以下合計16名の委員で検討頂いたところですが、今回の第3次計画につきましても同じような団体から委員の選出をお願いしたいと考えておりますが、10年経ってますので、現在解散した団体等もございますので、こういった団体から委員の方を選出させていただくかも含めて今後検討させていただきたいと思います。

続いて、2枚目の表側の資料になります。こちらが第3次河北町教育振興計画策定スケジュール案とさせていただいております。第2次計画策定時の実績をもとに、同じような流れとして、案とさせていただいております。

流れとしましては事務局会議で資料の検討を行いまして、策定会議、策定委員会に諮って検討を進めていくというような流れとなる予定です。5月に教育総合会議でメンバー等の委嘱関係等の協議を頂きまして、中間的な協議として8月をめどに教育総合会議を開催させていただいて、案というような形で12月の総合教育会議でまとめたいと考えておるところでございます。12月に案を策定しまして、パブリックコメントを経まして、3月に毎年行わせていただいております総合教育会議で決定というような予定で考えておるところでございます。策定委員会につきましては、大体5回程度開催させていただいて協議頂ければと考えておるところでございます。

3枚目以降でございますが、山形県で策定しました第7次山形県教育振興計画の概要版になってございます。こちらを基に町の計画に盛り込ませていただく予定とさせていただいております。県の計画は、三つの柱として、方針の一つ目が、

「一人ひとりが自分らしく可能性にチャレンジできる学びを実現する」、二つ目として、「誰１人取り残されず、誰もが続けられる学びの機会を充実する」、三つ目としまして、「社会変化に対応した学びの環境を整える」という三つの柱を立てて、それぞれアクションというような形で細かい政策等が記載されているところです。こちらを参考に、同じような形でつくっていくことになるかと思いますので、御承知おき頂きたいと思います。

最後のページを御覧頂きたいと思います。山形県の７教振では、それぞれのアクションに対する数値目標が設定されたところでございます。町の第２次計画の際にはこういった数値目標の設定はありませんでしたが、こういった数値目標も今回の第３次計画に盛り込む必要があるのではないかと、事務局のほうでは考えておりますが、こういったものを含めるかどうかの是非も含めて皆様から御協議頂ければと考えております。

こういった流れで第３次計画を策定させていただきたいと考えておりますので、御協議よろしくお願ひしたいと思います。

以上になります。

森谷町長

委員会を立ち上げて、来年度中の策定をという説明で、委員の皆さんから御質問ございますか。

児玉委員

スケジュールと概要だけなので、何の考えも持ち合わせていないんですけども、新しい学校をつくるに当たって基本となる教育理念的なものをどこの時点で出していくかを聞いたときに、次回の教育振興計画などでという話がちょっとあったように思いますが、この教育振興計画にどのように反映できるんだろうかなと思いながら聞いておりまして、（学校再編、建設などはこれからになるが）第３次計画の間に新しい体制になるのですか。

宇野課長

小学校だけは統合はなるが、中学校までは（建築が）できない。ただし、小中一貫教育は、今の計画では出来るので、その理念というのは同じです。

森谷町長

まだ案ということですが、施設一体型の小中学校を整備していく、計画的、段階的に進めようということで、令和 13 年度にまず小学校開校して以降、今の中学校に小学校を併設することで、中学校の建物は段階的にこの期間の後になりますけれども、小中一貫型の施設一体型は 13 年度に向けて整備していこうという大きな方向づけを、まだ確定するまでは手順を踏んでいかなきゃならないわけですが、当然、来年度はそこも視野に入れた、理念的なことは振興計画に盛り込むことでよろしいですね。

宇野課長

当然この中にあるコンセプトなどは振興計画ともリンクしてこないと、逆におかしくなるので、そのように考えております。

森谷町長

これは中学校が校舎新しくならないと併設型が完成しないことではないですから、校舎の整備は段階的にですが、一体型の小中学校づくりは進めていくというのは現在の案ですから、そういうことかなと思ってます。

児玉委員

やっぱりこういう学校にしていくんだという理念的なところ盛り込んで欲しいと思います。

もう一つなんですが、この振興計画の策定委員についてですが、それぞれの関連の代表者の方々が来ていると思うんです。大体代表の方っていうと年配の方ですよね。しっかり経験を積まれた方が多いと思います。そういう中にもう少し若い方とか、そういうものも盛り込んだことも必要かなと思ってます。そういう辺りを少し検討してもいいのかなと思ったところです。

森谷町長

策定委員会の人数は、なにに基づいてましたか。

宇野課長

要綱に基づいてますが、要綱を今から作ります。教育、生涯学習関連の団体としては（これ以上）入れられないと思ってます。ただ、必ずしも団体の長でなければならぬとは思ってません。各団体の考え方もあると思いますが、長の人が出てくることが多いです。

森谷町長

この策定委員会のときは（学校）整備委員会はない形になりますよね。それから言うと整備委員会のメンバーのどなたかに、例えば、必ずしも委員長でなくてもいいんですけど、入っていただくという考え方もあると思いますし、整備委員会でも若手の方も入ってますよね、ある程度整合性を持っていくためには、やっぱりその議論の中にコミットした方も、この策定委員会の中に一緒に入れて今度は振興計画を練っていくという考え方もあるのかなって思います。

また、県の振興計画をベースに置きながら、町としての経過の検討をやっていると思いますが、「一人一人が自分らしく可能性にチャレンジできる学びを実現する」、その中で気になったのが、イノベーションを担う人材育成、県でいえば高校教育まで入ってるので産業高校を想定することもあるかと思いますが、小中学校でこのイノベーション的なことをどういうふうに考えるかですけれども、将来的に高校進学、さらには専門学校、大学進学ということを考えていく上で、小中学校でイノベーションというか、産業などいろんなイノベーションがあると思いますけれども、そういうことからいうと、産業界は入っていませんよね。方針3のところで、教育DXを実現する、そういう意味からいうと学校現場でDX、現場の先生方が関わっておられるのでDXについて見識を持ってらっしゃる方もいるかもしれませんが、小中学校教育の中でのDXというものをどういうふうに考えるか、端的に言うと、学校整備委員会サイド、産業界やDX関連、この

辺はちょっと念頭に置いて検討していただくとこともあっていいかと個人的思います。

あと、検討体制の中で策定アドバイザーですね。多分必要に応じて、例えばDX関連だったらこの人から意見聞いてみたいことになるかと思いますが、産業のイノベーションとかDXとか、ここについては、必ずしも委員でなくても、アドバイザーでもいいのかも分らないですが、委員としてしっかりコミットしてもらってもいいと思います。

そこは事務局で検討していただければありがたいかな。

木嶋委員

先ほど産業界の話もありましたが、私も青年会議所とか商工会とかいろいろあるので、そういった方を入れてもいいのかと思います。IT関係に詳しい方もいらっしゃるし、河北町にはいろいろな人材の方が大勢いらっしゃるんで、いろんな分野の方を入れてもいいかと思っています。

槇委員

私も若い方の意見を盛り込んでほしいと思います。PTA連絡協議会の方1名ですけど、やっぱり若い方の意見を伺いたいと思います。

また、第7次山形県振興計画に子供のアンケート結果がのっていますが、河北町の小学生や中学生の現状値と目標の数値など、若い方の意見を取り入れつつやっていただきたいと思います。

庄司委員

いろいろな会議で皆さんの意見が出ますが、会議が終了すると、その会議で出た意見の細かい思いまでは伝わらないので、もしこの中に入ってもらえるなればその細かいところの思いもずっと継承されていってより良い学校づくりになるかと思っています。

PTAのほうでもですね、やっぱりなかなか成り手もない、その辺の誰を入れるかっていう選定も結構難しくなってくると思います。よりよい意見を取り入

れるためには、いろんなところで小中学校で意見を吸い取るような体制をとっていただければと思います。

また、子供たちは今、受験の中でボランティア活動のほうも結構重要視されています。河北町の中でボランティア活動ができるところ、する場所ですね、どういうボランティアに参加できるかという、地域に対するボランティアの人づくりっていうんですか、その受皿のところをちょっと広げていただければ、学生の方もボランティアで参加しやすくなって、さらに地域とつながりがなっていくのかと思いますので、お願いしたいです。

森谷町長

地域と連携した学校教育っていうところにつながっていくわけですね。

それでは以上で、今後進めていくことでお願いします。

森谷町長

それでは、河北町立小中学校整備基本構想・基本計画について、お願いします。

宇野課長

資料ナンバー2を御覧頂きたいと思います。1枚目が前回の教育委員会議のほうでお示した素案から、案に変わる変更、修正点をまとめたものです。2枚目はその案の概要版ということで、簡単に全体の計画です。次が厚いところで100ページちょっとなるんですが、案となります。簡単に素案の段階でちょっとお話ししましたけども、整備委員会から出てきたところを修正したものを大きく3点ご説明します。

初めに、本体の10ページを御覧頂きたいと思います。第1章の最後のほうですが、3) 小中一貫型小学校中学校の整備というところであります。一段落目の終わりの下から3行目、デメリットについては、というところです。このデメリットの中に、学校までの距離とかですね、そういったものがありましたが、別に小中一貫でなくてもそれは関係ないんじゃないかと整備委員会からの御指摘もあったんでデメリットについては書き直したところです。

少し読み上げます。「人間関係の固定化や小学校卒業時の達成感を得にくいこと等が懸念されます。しかし、発達段階を考慮した計画的な異学年交流による幅広い人間関係の構築や節目を大切にした教育活動の実践等で対応してまいります。」というふうな書き方にしたところです。

次に本文中の 76 ページ、どういう整備方法にしていくかという議論をしたところであります。上から 3 行目までで、河北中学校の敷地に小学校を増築して、既存の中学校と接続するように整備します、で止まっておりました。その後、中学校の記載が何もないということで、「令和 13 年 4 月開校を目指し、まずは小学校を整備し、中学校については当面修繕等の改修を行いながら使用し、財政状況等を勘案しながら、統合小学校整備後に令和 23 年度（庁舎整備事業の返済終了年度）開校を目安として中学校整備を想定します。」というような中学校についての文言も、3 行ほど入れたところであります。

大きく三つ目ですが、100 ページの各種建築計画であります。4) 維持管理、更新性というところで、整備委員の方から御意見を頂いたところです。四つ目と五つ目についてご意見を頂いたので追加したものです。1 つは四つ目はですね、今、除雪については重機での除雪を登校前にしていただいているんですが、それだけではなくて、例えば門から昇降口までを融雪設備、コストもかかると思うんですが、そういったものを検討もしてはいかがかという御意見がありましたので、追加させていただきます。あとはもう一つは、想定外の大雪が降った場合、屋根の修繕もあるかと思いますが、屋根に何かしらあったときに上れるような設計にしておく、維持管理にも十分役立つんじゃないかという御意見がありましたので、その一文を入れさせていただきました。

あとは大きくは変わっておらず、文言の整理をしたというような中身になります。

これに関しましては今の予定では、1 月上旬から 2 月上旬の 1 か月間でパブリックコメントをしていきたいと思っています。

ただ案についてですが、一応議会の下承を得たいと思っております。議会が先ほどお話ししました特別委員会のほうで議論、御協議を頂くということで、来週の 24 日の特別委員会のほうに、これと同じものを提示して御協議を頂き

ます。そこで了承が出たならば、1月上旬から2月上旬にかけて、1か月間パブリックコメントをしていきたいと、今のところの計画であります。先ほどもお話ししましたが、特別委員会が3月定例会までの期間で設置するというふうになってますので、特別委員会とも話ししないと、どの段階でパブリックコメントして案をとって正式な計画にしていくというところはちょっとお話をしないと、なかなか難しいかなあと思ってます。議会と十分対話をしながら進めたいなというふうに思っております。以上資料2の説明でございます。

森谷町長

委員の皆さんからご質問ご意見をお願いします。

森谷町長

この案としてパブコメに付するのは、振興審議会などと違って諮問答申ではないので、まずは教育委員会としてパブコメを募ると、そのあとパブコメを受けて特別委員会にも説明しながら理解を頂きながら、基本構想・基本計画策定に向けて進めていくことになる訳ですよ。

ちなみに特別委員会は、12月議会で総務産業常任委員会、厚生文教常任委員会、両委員会からそれぞれ4人ずつ、委員長は吉田副議長、議長は特別委員会に入らないということで、副議長が委員長のもとに3月まで特別委員会の中で審議事項として小中学校の整備に関して財政の見通しを検証するという設置目的、議案上はそうなっているということです。要は、一貫校として整備していよいよ来年から基本設計に入るべく基本構想基本計画を今回つくろうとしているので、今の段階の見積りで50億を超える、さらにその先に中学校の整備というものを一気にしないですぐ段階的に進めるってということですが、今後中学校も整備すれば今のところ114億、それぐらいの規模になる中で財政の見通しを述べて、裏づけを持ってしっかり進めていける、その辺をしっかりと議会としても議論していきたいという特別委員会になってます。

庄司委員

この前に中学校敷に車が入って来た事案があったようですが、自由に入れるのは問題ですが、地域につながって開放なっている、学校が閉鎖的なところではなくてオープンになっているのは、地域にとってはありがたいところですが、そういう問題があるとなにをやってるんだっていうことで、ちょっと難しいところもあります。防犯的なところなども検討していただければと思います。

森谷町長

地域に開かれたというか、塀の中で子供たちが勉強するようなことではあってもならないし、さりとて校舎の中でしっかりセキュリティーを確保しなきゃならないと思います。新しい学校づくりは、50 年は使っていくわけなので、バリアフリーとかいろんな面で、安全面の確保なども考慮していければと思います。

楨委員

やっぱり 82 ページの基本コンセプトを、頭の中で整理し形作って、河北町にしかない小学校中学校を整備にしてもらいたいと思います。

森谷町長

町民の方々、とりわけこれからこの学校で学ばせる世代の人たちに、好感を持っていい環境になると思ってもらえることが、やっぱり大事だと思います。だからこの前の 12 月議会で私が言ったのは、校舎づくりではないと。学校づくりだと。1 つの小学校をつくるからといって、どういう校舎を作りましょうかではなく、どういう学校をつくっていくか、そこをしっかりと議論して、みんなで期待を持てる学校にしていく。当然財政的な裏づけなければ町の仕事はできないわけです。でも、100 億円の範囲でとか 40 億円の範囲で建物を建てましょうという話じゃなく、やっぱり学校づくりっていう観点で、40 年 50 年、これからの子供たちが学ぶ学校をどうやって作っていくのかというのが、この基本構想であり、基本計画であり、基本設計につながっていくと答弁しました。

今、お話がありましたコンセプトが大事だと思います。

木嶋委員

同じように建物でなく、未来に向かう学校にして欲しいと思います。先ほど庄司委員の話にありましたが、防犯面で、少し前だと中学校行ったときは、中に入る時にはきちっとして記入して入った記憶があるんですけども、これからの学校整備ですと、例えば防犯カメラとかの整備とか、そういうふうになってくるのでしょうか。

森谷町長

校舎に入っていくときの安全対策、どうやってそれを維持できるかというのは、例えばオートロック機能、例えばカード提示とか、関係ない人は出入りできない、あるいは顔認証とかですね、ただ顔認証ですと、生徒の保護者であったり、誰を顔認証で入るようにするか、それ以外の人は一応チェックしてからと、どう定義するがあります。メンテナンスとかいろいろあって、維持管理も含めて便利だけど、コストもあるでしょうけども、いろんな課題があると思いますが、考えていかなければならない。防犯カメラの導入も入ってくると思います。

木嶋委員

相反的な二つを学校に管理してもらうことになる、あんまりセキュリティーをガチガチにしても問題だし、開かれた学校にしていく方針と、それぞれ相反することを考えることになるかと思います。

児玉委員

学校を建て替えるといった問題ではなく、総合計画の後期計画にあるように将来を見据えた学校整備ということで、要は将来を見据えるとはどういうことか、町に人が集まってくるような魅力ある学校整備なのかなと読み替えているんですが、そういう辺りをしっかり打ち出した説明ができていけばいいというのが1点です。

あともう1点が、校舎の整備に当たって、中学校の整備が必要だという理由が、中学校が老朽化していて、そしたら一緒に整備してはどうかということで小中一貫

っていうのが出たが、それは予算的に財政的無理だとなって、まず中学校は今の校舎を使つてと、その解決が何となくすっきりしないのでお尋ねなんです、77 ページに整備方法として、中学校が庁舎整備事業債の返済終了年度に開校するところは分かりました。そのためまずタイプ A-1 でいくと、78 ページ以降はそのほかにもいろいろなタイプあって、要はお金、財政についての比較をするために出ているんだと思うのですが、そうしたときに、今から 10 何年後かに中学校の整備が終わるとすると、その間の中学校の修繕費なりは今後の検討にどんなふうに出てくるのかお尋ねしたいと思います。

宇野課長

当然我々のほうでも、今現在ですね中学校の修繕にどれぐらいかかるか、あと 15 年持たせるにどれぐらい修繕が必要なのかという資料はまだ手元にないです。

大きな枠での学校の長寿命化計画はあるんですが、個別の計画がない状態です。個別に対応すべく、来年度に調査費を計上して本当にどこが修繕していかないと駄目なのかを見極めたい、それを基にこれから計画的に段階的に修繕を図っていきたいと考えております。

すべて修繕するとなると、長寿命化計画では 20 億とかの金額が掛かるような計画だったと思ってます。そこまでは無理なので、どの程度までが必要なのかという見極めが必要かと思ってます。

今のところの調査結果では、本当の基礎の部分、1 番太い柱とかの建物を支えているところが、まだまだ国の補助をもらえるぐらい弱くはないんです。そこが弱くなってくると、国の補助ももらえるのですが、今の状態で建て替えたりすると全く補助が出ない建物なんです。だからその丈夫なところを生かしつつ、どこを修繕していけばいいのかというものを来年度に調査の中で見極めて、さらに計画的に修繕をする計画を作っていくというふうな考えです。

ですので、申し訳ないんですがこの計画にはちょっと入れられないので、さきほど説明したような表現で、中学校については修繕しながらという表現にしたところでした。

森谷町長

議論として、小学校をどうするかは1校にしていきたいと思います。新しい校舎を整備していくのが1番いいよね。じゃ、どこにつくるの。どういうふうに、と考えた場合は、やっぱり小中の教育の在り方がつながる一貫校。小中学校一貫となると、面積的にもいろいろ比較検討して、今の小学校敷地に作れるのか、今の河北中敷地に作るのか、それとも新しいところに土地を求めるのか。そういうところを想定したときに、河北中敷地が1番面積的良いのではないかと、谷地中部小学校と町民体育館敷地は全部壊しても、河北中敷地よりは小さい、小中一貫、中学校との連携もしながらというとなればやっぱり河北中敷地が1番いいんじゃないかと思えます。

古くはなってるけど、文科省から補助をもらえるほど、壊さなきゃならないような、建て替えなきゃならないような校舎でもない。当初は財政的に可能であれば、やっぱり修繕しながらよりも、もう小学校整備と併せて1回でつくったほうが、理想的な校舎に近づけると思えます。中学校も古くなってるし、危険な校舎ではないまだまだ使える建物ではあるけれど、一緒に整備したほうがいいとなったと思えます。

そこでいろいろ試算した場合に、今河北町は100億から大体110億ぐらいの予算規模です。今後人口が減ってというのがありますが、そういう中で、現在の借金返済はどれぐらいか、100億位の予算の中で7～8億です。小中学校を一緒に整備するとなると、今中学校の分は文科省の補助がないので、自力で新しい中学校を整備しようとする、今の7億とか8億の返済に4～5億増えることになる。12～13億を返済となると耐えられるのだろうかとなってきます。

そこで、まずは小中一貫校を実現していくのであれば、使える河北中を修理しながら、段階的に整備していく。返済額が7億位だったものを9億位の返済であれば何とか、財政も回していけるだろう。そのあと、役場庁舎分の返済が終わった段階では7億のベースが下がりますから、そこに中学校の返済分がプラスされても何とかできるのではないかとあります。そんなに楽観視できる財政状況じゃないです。中学校小学校の問題だけでなく、これから町民体育館も古くなっていくし、サハトも古くなっているし、道路も、いろいろあるんですけども、そうい

う中で、何とか学校整備っていうものを、やっぱり子供たちの50年後の学校づくりを整備していこうということで、今議論してるんです。全部一斉にできないですから、やっぱり段階でもやむなしかなと思います。

そうなった場合、中学校はあと30年～40年使えるような大規模改修はしないにしても、あと10年は使えるようにするにはどれだけ改修が必要なのか、最低限の修繕にどのくらい必要なのか見通しながら、進めていなければならぬのかと思ってます。

森谷町長

ほかに皆さんから、よろしいですか。

森谷町長

それでは先ほど説明ありましたが、来週14日に特別委員会がスタートするということで、特別委員会にこの案を提示しながら、パブリックコメントにつなげていきたいと思います。

また、パブリックコメントを受けて（案）を取る段階で、次回の総合教育会議において皆さんから御意見をちょうだいできればと思います。

それでよろしくお願いします。

森谷町長

最後に部活動地域展開の進捗状況について、お願いします。

秋場課長

それでは資料に基づいて説明させていただきます。。

部活動改革について、(1)としてはこれまでの経緯と今後の予定についてですが、最初の改革推進期間におけるスケジュールと進捗状況については、次の2ページに、令和7年度の実績と今後の予定については、3ページに記載をしてございます。

(1)については後ほどということで、(2)に移ります。部活動改革について

の国と県の方針の違いということで、国の方針としては例えば令和 5～7 年度を改革推進期間として進めてきましたが、途中から令和 8～10 年度を改革実行期間の前期、その後 3 年間、令和 11～13 年度を後期というふうに定めた中で、進めようとしております。ただ県のほうは、令和 7 年度末までに休日の部活動を行わない環境を整えるということで、いわゆる地域展開を令和 8 年度から図るつもりで進めようという方針でいます。

(3) 河北町の方針につきましては、県の方針に基づいて令和 7 年度末までに、休日部活動をしたいという希望がある生徒が、活動ができる体制を整えて、サポートを行っていききたいということで、県の方針に基づいて動いている状況です。

(4) 令和 7 年度の重点項目として、三つほど挙げました。一つは国の委託事業、指導者はほぼボランティアとして活動しているところが多いんですが、実際に長期化といいますか、持続可能な体制を整えるためには、謝金などいろんな費用がかかってくるんだよということを、各団体に分かっていただくところです。令和 7 年度に入って、4 月 1 日に一つの地域クラブが立ち上がり、見通しが少しずつ見えてきたところで、7 年度中に、(委託事業の) 追加の募集がありましたので、10～12 月の 3 か月間で実証事業に取り組んだところです。

二つ目としては、部活動改革の情報提供です。関係者、関係団体に、直接説明を行う、広報紙、広報かほくなど、広く周知を行うことで、いろいろな意見として情報が少ないという声があります。出来るだけ情報周知を行うというふうに取り組んできたところです。

三つ目としては指導者不足というのが、各団体ともありました。そんな中で町主催の指導者研修会を先月 11 月 16 日に開催したところです。近隣市町、県内においても、いろんなところでもやってるわけですが町としても開催し、さらに西村山管内としても情報共有をしながらお互い協力体制をとって、寒河江市で開催するにも河北町からの参加者を考慮して手伝いに行ったりと協力し、広く周知を図っていろんな人が参加できるような体制をとっているところです。

そんな中で、(5) 課題ですが、二つほど例を挙げたところです。一つは実証事業、この 3 か月間行っているところですが、これはスポーツ庁からの委託事業でありまして、文化部の委託事業の追加募集がなかったために、やりたくてもやれ

ないというのが吹奏楽部であります。吹奏楽部については、アンケートで土日の活動も行いたいという希望が多いです。保護者会を中心にしていかないと体制づくりはつくれないという考えのもと、保護者会の役員の方に説明したり、保護者会全体での説明をしながら、とにかく保護者会として何か動きをしないと土日の開催はできないと、理解を頂きたいところです。

ただ、一つセキュリティーの関係で、道具もやっぱり学校の備品を使うことになりますし、場所についても中学校の建物で行うしかないということで、理解は得てるんですが、体育館ですとそこにしか入れないようになっているんですが、学校のどこにでも入るようになるということで、セキュリティーの関係が解決できていない課題ということで、協議を進めているところです。

あともう一つが、活動が二つに分かれている部活がありますが、中体連の大会等には河北中学校から出るので、別々に練習している人たちが平日の部活動でいかにそのチーム編成ができるのかというのが大きな課題になっているところです。そういった団体とのお話、協議なども進めながら、必ず一つにならないということでもないの、自主トレなどのようにいろんなところで、体をつくっていく、強化していくっていうのはいいことですが、中学校の部活動として大会に出るということであれば、良いところなどみんなで共有しながら、ワンチームとして出るような体制を考えていく必要があると認識していたところです。

2 ページについては、これまでの状況ですけれども、この令和 5～7 年度は改革推進期間ということで、何をしなければならないのか、例示をしながら取り組んできたところですが、やはりまだ何年か後ということで、令和 5 年、6 年と、なかなか進まなかったことはありますが、いざ令和 8 年度からということで、今年度については、少しずつ動きが出てきたところです。令和 7 年度について三つの団体が地域クラブ登録をしました。10～12 月、3 か月でしたけども実証事業なども 11 団体ができたところです。

3 ページですが、令和 7 年度の実績と今後の予定ということなんですが、上の項目は教育委員会、町としての動きですが、国の委託事業の実証事業、国の 10 分の 10 で 92 万 8000 円受けたところです。これを受けて、10～12 月の 3 か

月間、実証事業として行っているところです。1番は指導者の謝金とか、実際にはお金がかかるというところを、各団体に分かってもらう、持続可能なことを視野に入れながら、行っているところです。

その下は地域クラブについての項目ですが、マルチスポーツも含めて、河北中学校にある部活にあわせて10団体が実証クラブに登録をして活動しているところです。なお、河北中学校にある部活でこの実証事業に登録していないのが、陸上競技と水泳、ソフトボールの三つです。そのうちソフトボールについては、今年1年生は募集停止になって、2年生と3年生が1人ずついるような状況の中で、合同での大会に参加していますが、来年3年生になる方が1人、その後は募集停止になる状況です。あと陸上、水泳については、民間といいますか、陸上についてはE Tジュニアで活動してますし、水泳については寒河江にあるスイミング二つ、あるいはコーチに付いて山形に行くような生徒が居たりと、これは実証事業というよりも地域移行に既になっている状況ということです。

文化部については三つありまして、美術とコンピューター部については土日の活動の必要性なしということで、あともう一つは吹奏楽部、先ほど申し上げたように保護者会を中心に、来年度に向けて動き出したところです。

地域クラブに登録したクラブは、4月にバレー、10月になってサッカー、野球が登録をしたところです。

あと、河北中学校の関係ですが、4月に教職員への説明、全校集会での生徒への説明、保護者へとしてPTA総会での説明、9月には体制が変わったところで、また改めて部活の保護者会の説明を行って、12月6日には新入生いわゆる現在の小学校6年生が中学校に入るときに、中学校での部活動がこういったもの、任意加入ではあるけども、部活動改革の中で土日の活動について説明してきたところです。

情報提供、周知を図りながら、1月以降についてはこの実証事業の課題の集約とか問題整理をしながら、4月に向けて動き出したいと思います。地域クラブについても、地域クラブとしての充実した活動ができる体制づくりをつくっていますので、まだ三つの団体ですが、実証事業の後に受皿ができるのではないかと期待をしているところです。

以上これまでの実績と今後の予定、今年度に入って少しずつ動きが出てきたということで、来年度に向けては少し期待ができるような状況になったのかなというふうな感触です。

資料の説明は以上です。

森谷町長

令和5年度6年度と、2ページにあるように進まない、難しいいろんな課題ばかり出ている状況で、本当に来年の4月に間に合うんだろうかというようなことで、心配した部分もあるんで、今年も地区大会とかあるいは県大会で、私もちょっと現場に行って、全部競技じゃないですけど、顧問の先生とかあるいは保護者の方々とお話して、3年生までは今の体制で頑張っていたんで、いよいよ地区大会県大会終わって、これから2年生と1年生が主役になっていく中で、保護者の方々も2年生1年生体制になってきて、だんだんアクセルが踏まれて、そこに実証事業もいろいろ取り組んで頂いて、まだまだいろいろ課題はあるとは思いますが、こんな形で進んでいきそうかなという姿が見えてきた、整いつつあるっていうか、そんな感じだということをごさうというふうに私も聞いたところです。

皆さんから、御質問がありましたら遠慮なく頂ければと思います。

児玉委員

本当に一気に進んだなっていうのがあって、国がもっとゆっくり進む見込みでいるなかで、県とそれに河北町はスピードを持って、一気に進めるっていうところの思いというかそこら辺1点伺いたいです。

あともう一つ、今中学校にある部活動の受皿っていうことでは、どんどん整備するなり進んできてると思うんですが、町の芸文協で今ある部活ではなくて、生涯学習になったようなものを何か中学校の部活動の一環として入れていけないかといった動きがあると思うんですけども、そのあたりはどんな風になってるかわちよとお聞かせください。

秋場課長

国では途中から消極的になったようです。最初はこの3年間で、まずは地域移行できるようにということで、それを受けて県のほうも動きをしてきました。ただ、全国的に見ると、町村部については民間のところはないという中で、改革推進期間は3年間で、その後6年間で実行していきましよう、前期後期に分けながらと、後で出てきたもんですから、その前に県も町も5～7年度で、8年度からはもう確実にできるような動きで来たもんですから、あえて国が後から実行期間を6年間でゆっくりやろうかという動きよりも、予定どおりやりましようという思いです。

秋場課長

芸術文化の観点からということで、混成合唱団を中心に合唱についても、河北中には昔は音楽部があったんですけどもそれなくなって、でも受皿としていずれ大人になったときに入ってこられるかもしれないことから、混成合唱団として受皿としてできないだろうか、中学校とコラボなどできないかを、今検討しながら来年度に向けて今進めようとはしているところです。町の文化祭に中学校から1団体だけ、最優秀のクラスだけは来ていただいて発表してもらってるんですが、何かそういうコラボ的なところ、練習なども一緒にできるかどうか、会長が動こうとしているような段階です。

森谷町長

お茶とかは、谷地高とはいろいろやってると思うんですけど、中学生にもいろいろあると聞いています。

児玉委員

動きがあるようですが、そういう部活動を掘り起こしていくみたいな、子供たちが今やってはいないけれどこういうのも出来るんだよという、紹介なりなんなりができないかとの声があって、具体的にそういうことが起こった場合に、可能なかどうなのかと思っています。

森谷町長

地域移行っていうよりは、どちらかというと中学生の文化活動、地域の文化活動やってらっしゃる方と中学生が連携して活動ができればいいのかなっていうことかと思います。

秋場課長

もちろん個人の活動としていろんな活動したいときに、情報提供があれば、個人的に参加できるような体制っていうか、周知は必要かなというふうな話になってます。

森谷町長

授業で書道とか、音楽、美術もあるよね、中学生でお花とかお茶とか書道とか、中学生の部活動をやってるところはあるんですか。

板坂教育長

学校の規模によって、書道クラブがあるところもあります。授業でやって書初めがあって表彰とありますが、最近表彰をしない学校も出でている。いろいろ考え方があるかと思いますが、先ほど児玉委員の御意見で出たのは、土日いかに生涯にわたっていろんな体験できるかが本当の趣旨かと思います。

この指導者を募るときに美術クラブとか様々な人が集まってもらって、どうですかとお聞きしたときに混声合唱団などは喜んでコラボしていいよと言っていたきました。美術クラブでは指導者が高齢化していて難しいと言った御意見でした。生徒、子供にとって、いろんなものを経験していただきたいので、指導者が確保できて謝礼も確保出来るのであれば、町としては大いに進めたいなというふうに思ってます。

小学校もお花の生け花、毎週ではないけど日曜日にやってるようなこともありますので、そういった延長線として休日におけるお華クラブなどから、実現できたらなと思います。

森谷町長

華道の方たちのすばらしい作品のほかに、小学生が出品してますよね。
中学校はないのですか。

児玉委員

小学生だけが子供教室を通して出品してます。

森谷町長

中学生も多く広げて、受皿としていければと思います。

木嶋委員

やっぱり3年間をかけて進めてきましたが、スタートしてみないと分からないところがある、もう来年からなので、どのように対応していくかというのも、考えていく必要があると思います。あと中学校の部活も強制でなくなって、どのぐらいのパーセンテージで部活なさってるのか、またeスポーツとかいろいろな新しい分野で注目されてるところもあると思うんですけども、新しい観点で部活動を作るとか、そういう動きってというのはどうなのかと思います。

板坂教育長

河北中は、西村山地区に7校の中学校ありますけれども、1番任意加入率はいいです。ただ、地域展開が遅れたために任意加入率が高いのかもしれませんが、数字的にちょっとはっきりした加入率は覚えておりませんが、8割以上90%に近い加入率だったと思います。

ただ、危惧してるのは何にも入らない、いわゆる運動部にも文化部にも入らないで時間をもて余す生徒が増えるんじゃないかと思っています。あともう一つ心配なのは、先ほども課長から説明あったんですが、いわゆるクラブが様々あって、部活と休日の活動でコーチが違う場合です。生徒にとって、部活のときとクラブでコーチの言っていることが違う、また、勝利至上主義の保護者と楽しむ活動を求める保護者と対極的にあるんです。

そこをどうかしようと我々が言っても改善できない、その辺は人気があるクラブほどそういう現象があります。

木嶋委員

保護者の中でも一生懸命っていうか勝負に頑張りたい人とそうじゃない人、コーチもいろいろあって、なかなか難しいところあるんだというような話をお聞きしてて、課題っていうか、ちょっと心配しています。

森谷町長

鶴岡市でうまくいってるみたいな話を聞いて、なんでうまくいってるか、やっぱり勝利を目指す生徒あるいは保護者、中学の充実した部活、やっぱりこの生徒に1番大事な相談相手は顧問の先生で、(顧問も)できるだけ出してあげたい、でも勝ちたい、そこを鶴岡市ではうまくすみ分けできるような受皿だったから、だから進みそうだとの話を聞いたことがあります。全ての競技なのか、一部なのかはわかりませんが。

あと、部活の加入率っていうことで私も今年地区大会、県大会で他市町の校長先生と話したら、部活にかける保護者の思いがやっぱり圧倒的に違う、自分たちも部活に打ち込んだ、だから自分の子供にも、勉強はもちろんだが部活も頑張れと、その思いの温度差だと思うとの話があった、保護者が部活への期待が大きいので、加入率が高いようです。

槇委員

まず一つ目が、この間指導者不足の解消ということで11月16日に指導者研修会を実施したということだったんですけれども、指導者になってくださる方がなかなかいらっしやらないと思うんですけど、指導の技術もありますが、今大事なのはモラハラとかセクハラとか、指導者に対してハラスメント講習みたいな、そういうのも含めた講習会だったのか、生徒とのコミュニケーションのとり方とかも含めた講習なのか、技術だけの講習だったのか、こういった講習会だったのですか。

あと、部活動が任意加入になって、部活に行ってる子、入ってない子、部活に参加してても平日の部活だけでスポーツを楽しんでやりたい子、全中を目指してばりばり頑張るって土日に一生懸命やる子、部活の中でも温度差があるわけで、そういうふうなところで、顧問の先生はどういったふうにして選手の起用をするのか。クラブが二つある中で、河北中として選手をエントリーするときはどういうふうな形で選手を起用するのか、その競技をやった先生が顧問の先生なら分かるけど、実際自分が一切経験したことがない部の顧問になったときには、どの選手の起用をするのか、土日の受皿となってる地域クラブのコーチなり指導者なりからのアドバイスで選手を決めるとか、そうするとそのクラブに行っていない子供の起用はどうなるのか、実際始まってみると出てくる問題かと思いますが、そういうところはどういうふうにしていくんだろうなっていう疑問です。

森谷町長

時間も迫ってきたので、庄司委員の御意見御質問を受けてから、進めたいと思います。

庄司委員

実証事業期間をやって、課題、問題点の整理っていうのがあると思います。このところを早くしてもらって、代表者の方を集めて「こういう問題が各団体でもありました」という水平展開していかないと、今の2年生の子たちが3年生になったとき、地区大会まではもう6か月しかないので、すぐ切替えないと対応が難しいと思いますので、情報収集、集約の取りまとめを迅速にしてほしいところであります。

あとはもう一つはですね、第2回西村山地区部活動改革協議会が開催されますけれども、各地区でどのような問題点やどういう事例があるのか、お聞きできればと思います。

秋場課長

まず11月に行った研修会、西村山郡でも、あるいは県内でもいろんな指導者

研修会をやっているんですが、競技力を向上させるためというよりも、大体どこも最初に開催するのがハラスメント研修です。河北町でもハラスメント研修をまず行いました。

あわせて、もう一つは中学生って身体の発展途上の中で、いま中学校では練習時間は2時間とかで決めて、何時間でも練習すればってというのは大人ではあるかもしれませんが、体を壊すとかということがあるので、そういった中学生にとっての練習方法というか、練習時間とかを研修として行ったところでした。やっぱり競技力というよりも、ハラスメントや中学生に特化したもので、今後は栄養面だとかってところの研修を、検証を行いながら、今の中学生にとって運動面、食事面などの研修として、管内でもやってますので、河北町でもやっていきたいと思っています。

あと、コーチ、顧問は各（地域）クラブの状況がわかりません。だから、その人たちの実力分らないと言うんですが、平日の3日間の部活の中で、顧問あるいはコーチが見た中でチーム編成をしていただければと、アドバイスをしているところです。要は、平日の3日間の部活動を通してですと、顧問は確かにその競技をやって来た先生とやって来ない先生、関係なくなりますので、だからその3日間の中で、平日の練習の中で、誰を起用する、チーム編成をする、そのためにトレーニングは1人でやる人もいれば、どこかのチームに、団体に所属する人もいますが、それを全部把握してはできないので、お願いというか、そういう考えでやってほしいというようなことをアドバイスはしてます。

実証事業の整理については、12月いっぱいまでなので、1月に団体から情報もらってそれを共有するようにしていきたいと思います。各団体で、課題としてこういうことがあったと、そこはお互いに出てくるはずなので、情報の共有をしながら、本当にすぐ欲しいという思いはわかりますので、早い情報提供をしたいと思います。それと、西村山管内でも同じように協議会があり、同じような悩みがあって、教育長からもありましたが、土日の練習の内容と平日の部活動とすり合わせがないと方向性が違ってしまうと、やっぱり生徒が混乱する、コーチと顧問の情報共有を何とかやってほしいということとはどこの市町村でもあって、それが課題かなというところで捉えながら、情報共有をしてそれを伝

えていきたいと思ってます。

森谷町長

いずれにしても、これからの取組もありますし、あと4月からスタートしていく中でのまたいろんな課題も出てくると思いますので、総合教育会議に限らず、これからの教育委員会あるいは総合教育会議の中で、設置に向けたいろんな状況、まずあるいはスタートした後のいろんな課題なり対応についても、今年の3月で終わりでなくて、その後のフォローとか、そういったことも、報告なり、状況を共有していくとして、以上で協議事項を終わりということによろしいでしょうか。

(全員了承)

森谷町長

協議については、以上となります。

4 その他

特になし

5 閉会

齋藤係長

これをもちまして、令和7年度 第1回河北町総合教育会議を閉会いたします。

～午後5時9分